



年 組 名前

道新
ワークシート

1カ月ご飯10杯分廃棄

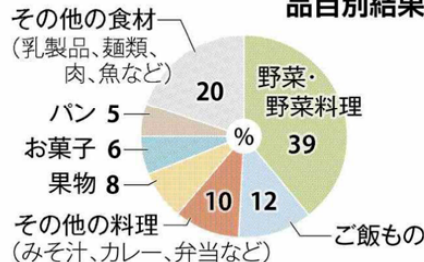
市の食品ロス調査 野菜・野菜料理4割

旭川市はまだ食べられる食品を捨ててしまう「食品ロス」に関する市民モニター調査の結果をまとめた。約1カ月間の食品ロス量は1世帯当たり1426gに上り、茶わんに盛ったご飯（140g）の10杯分に相当する。野菜を捨てることが多く、外で働く人や子どもが食べ残す傾向が見えてきた。

(小林史明)

モニターは昨年10月上旬～11月上旬に初めて実施、20～70代の男女計30人に委託した。毎食で出た廃棄や食べ残しの重さを量り、理由も記録してもらった。期間中の食品ロス総量は4万2797g。品目別にみると、「野菜・野菜料理」が39%と最も多く、トマト

旭川市の食品ロスモニター調査の品目別結果



やハクサイ、ダイコンが目立った。白飯や雑炊などの「ご飯もの」が12%、みそ汁やカレーなどの「その他の料理」が10%などと続く。捨てた理由は「食べ残し」と「傷んだ」がいずれも42%。「期限切れ」は10%だった。「食べ残し」の理由を詳しく問うと、「体調不良などで子どもが食べ残した」と「作りすぎ・買いすぎ」がどちらも3割近くを占めた。

就労状況別では、在宅勤務と無職の食品ロスは1世帯当たり千g未満にとどまったのに対し、フルタイムとパートタイム勤務は2千gを超えた。年代別では20代以外は野菜・野菜料理が最も多かった。20代は「お菓子」が最多で、「おいしいことがなかった」ことなどを理由にケーキをそっくり捨ててしまう例もあった。

調査後、参加者の80%は「食品ロスを減らせる余地がある」と回答。野菜の小分け冷凍などの改善点も寄せられ、①冷蔵庫にレシートを貼って消費した食品を塗りつぶす②食事は少なめに盛って、もっと食べられる場合はおかわりする③などのアイデアが挙げられた。市廃棄物政策課は「野菜の上手な保存方法を考えたい。仕事が忙しい人や子どもが食べられるような工夫も必要」話す。本年度は食品ロス削減のヒントを発信するポータルサイトを立ち上げる予定だ。

2020年4月9日(木) 朝刊 地方 旭川・上川 14P (記事は再編集しています)

①食品を捨ててしまう理由として、どのようなことがありますか。記事を参考に書きなさい。

②「食品ロス」を減らすために、あなたはどのようなことができますか。